

民報 ゆうばり

くまがい市議6月議会で質問

”はたやま和也”予定候補 来夕!

「オリンピック中止、今すぐ政権交代を！」の悲痛な叫び
市民と野党が手をつなぎ、政権交代、連合政権を!



21日(月)の夕方、はたやま和也前衆議院議員が来夕し、清水沢の光・憩団地で夕張市民に訴えました。細かな雨が降る中、約20名の支持者が集まり、また、数人が団地の窓を開けて演説に聞き入る光景も見られました。

はたやまさんは「菅首相は、感染状況が収まらない中、オリンピックを強行しようとしています。これは明らかな間違いです。今、首相としてやるべきことは、コロナ感染の対応に全力を注ぎ、困っている零細企業事業主や労働者、アルバイト学生などの困窮者を国として支援をすることです。オリンピックは即中止して、コロナ対応に全力を！ーというのが共産党の考えです。今すぐにでも政権交代してほしいという悲痛な叫びが上がっています。経済効果よりも、国民の命と暮らし、教育を守ることを最優先にするのが国家・政治の本来の役割のはず。秋までに行われる総選挙で、市民と野党が手をつなぎ、野党連合政権に政権交代を！」と訴えました。

ワクチン接種は？ 困窮者支援は？



9日から開催された第2回定例市議会での、日本共産党くまがい桂子議員の質問と答弁について、概要を掲載します。

●新型コロナウイルス接種について
質問1 予約を先着順にした理由と問題点は？
答弁1 本人の意志や、か

ナビダイヤルに注意喚起を
「先着方式」とした。「ワクチン接種コールセンター」を開設し、年齢層ごとの段階的な予約とし、また、集中時のために「臨時電話予約受付」を開設した。

意見
057から始まるナビダイヤルは、繋がりにくいというに、21秒ごとに10円が課金され、オペレーターが出るまでの待ち時間が長くなると料金が高額になることや、携帯電話の「かけ放題」は適用外であることなど、事前に詳しい説明が必要。

質問2 今後は改善を。
接種体制は？
答弁2 平日の市内医療機関の個別接種+日曜日の集団接種、臨時の医師や看護師、事務スタッフの人員を確保できたため、高齢者は7月末までに接種完了予定。

質問3 自身で予約ができない人については？
答弁3 相談支援にかかわる関係機関などと連携し、不利益にならないよう丁寧に対応していく。
質問4 65歳未満の接種対象者の対応は？
答弁4 国の実施要領に従い、12歳から64歳までの市民に対し、6月下旬から予約券の発送をめざす。

質問5 市内医療体制の現状は？
答弁5 一般外来、救急受け入れ、在宅診療、日曜当番医、ワクチン業務等、「かかりつけ医」として重要な役割を担っていただ

この度のワクチン業務で医療従事者の皆さんには大きな負担をかけているため、市として個別接種の予約業務を担うこと、また、臨時の医療従事者や事務スタッフの確保など、今後も医療従事者への負担軽減に努めたい。
質問1 昨年2月末からこれまで、緊急小口資金・総合支援資金の利用が約150件、5千7百万円を超えている。コロナ禍で就業先の休業や解雇などで、困窮した世帯が本市で受けられる支援策は。
答弁1 法に基づき、委託先の自立相談支援機関(ライフネット夕張II清水沢学園内)と連携し、相談者の個々の状況に応じて支援プランを作成。緊急小口資金・総合支援資金の申請サポート、住居確保給付金等の住宅困窮者への支援など、サービスの強化に努めている。市としては、市営住宅の徴収猶予、上下水道料の納付猶予、国民健康保険料の減免など。
さらに、市内大型事業所の工場閉鎖や倒産などにより、離職された方々への合同企業説明会を実施

(2)等で、就業支援の対応をしてきた。今後、市内飲食店や関連事業者に対する給付金、低所得の子育て世帯に対する給付金など様々な制度、支援の実施により、生活困窮に陥った市民の生活をサポートしていく。

困窮者の支援策 国・道の政策を含め わかりやすい表示を

質問2

市のホームページには14項目の支援が掲載されているが、岩見沢市のように、国や道の施策も含め、すべての支援策をまとめて掲載し、さらに、ポスターやチラシなどで積極的に市民に知らせる必要があるのではないか。

答弁2

今後、よりわかりやすいレイアウトや、他自治体等の情報発信なども参考にしていきたい。

質問3

新聞報道では、19年度と比べコロナ禍

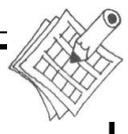
で生活保護の申請が25%増とあるが、本市の状況は。本市では19年度に比べ45%増加した。

答弁3

車の所持・持ち家等も特例で生活保護OK 市民に広く周知を

意見

全国では女性の自殺者が増え、生活保護が社会保障制度であり、最後のセーフティネットであることが、まだまだ知られていない。国会では厚労大臣が「必要な方は生活保護の申請を」と発言し、厚労省のホームページには、「現在の状況下にあつて、十分に求職活動を行うことが難しいと認められる場合や、車を所持しているも、持ち家があつても、自営業のために必要な店のために必要な店舗・器具も処分せずに生活保護が受けられる場合がある(コロナ特例)。」とわかりやすく明記されている。制度の周知徹底をお願いしたい。



くずさんの 夕張歴史散歩(159)

明治維新 73 朝鮮植民地支配 55

近くて遠い隣国

日本にとって一番近い隣国として友好関係を保たねばならぬ朝鮮に対し、明治政府の朝鮮支配政策以来、最も遠い国になってしまいました。私たちがずいぶん知らないことがたくさんあります。いや知らされなかつたというのが正しいでしょう。

例えば、韓国語で数字の教え方を1から10まで、英語と同じに言える方はそう多くはないでしょう。前号で見たように、古くから朝鮮と日本の関係は深い関係を持っていました。しかし、朝鮮に対する蔑視政策のため、隣国について正しく伝えない中で誤った朝鮮感が国民の間に植え付けられたのです。

「明治一五〇年」前半期の狂気

知らないことをいいことに、今また明治に帰ろうとする動きが執拗にうごめいています。もちろんこれを許さないたたかひもふつと起こっています。こうしたなかで、明治以来「日本は朝鮮で何をしたのか」をあらためて検証することが大切と考え、識者の研究をもとに書き綴ってきました。

これが明治維新の結果生まれた明治政府の正体だったし、これとたたかい続けたのは朝鮮と日本の民衆とだったのです。

来るべき未来のために

21世紀の世界は、明治時代から大きく変化しています。武力で他を支配する時代は終わっています。世界はお互いを理解し認め、協調して平和的に共存繁栄をめざしています。

そのときに際し日本が採るべき道は、過去の行為を率直に認め謝罪し、反省することです。

最も近くて縁深い朝鮮・韓国と真の友好が実現することを期待して、この稿を締めます。



岩渕 友「国会かけある記」 参議院議員 岩渕 友

北海道で聞いた苦難の声

通常国会が閉会しました。コロナ対策をどうするのか、課題が山積するオリンピックの問題をどうするのか、政府・与党は野党の国会延長の求めに応じず、一方で、国会最終盤、与党推薦の参考人までが懸念を示した土地利用規制法案を徹夜国会まで行って強行、自分たちの通したい法案はどんな方法を使っても通すという強権ぶりをあらわにしました。こんなやり方を許すわけにはいきません。

閉会後、北海道入りしました。紙智子参院議員、はたやま和也前衆院議員と団体の方々との懇談を行いました。北商連では、「催事関係の業者は実質廃業状態。行くと言わなければ次は仕事は来ないし、行けば必ず赤字になる。『コロナが出たら賠償』とまで言われている」「昨年の給付金分が収入に認定されて、国保料減免の対象にならない」など、引き続き深刻な実態が出されました。札幌と苫小牧のDV被害者の支援を行う団体の方々からは、「被害者を守るために、接種券がなくてもワクチンを打てるようにしてほしい」という要望をいただき、意見交換を行いました。街頭からも訴えました。科学的根拠も示さず、自分たちの都合の悪い意見には耳をふさぎ、オリンピックに固執しているのが菅政権と小池都知事です。きつぱり中止して、コロナ対策に集中するべきです。その審判を下すチャンスが東京都議選。お知り合いの方に支持を広げて下さい。